Title	錦蛇の壁蝨に就て
Author(s)	山下, 次郎; 森, 樊須
Citation	北海道大學農學部邦文紀要, 2(3), 158-159
Issue Date	1955-10-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/11607
Туре	bulletin (article)
File Information	2(3)_p158-159.pdf



錦蛇の壁蝨に就て

山 下 次 郎*·森 樊 須*

On a tick of Python reticularis SCHNEIDER

By

Jiro Yamashita* and Hans Mori* (Zoological Institue, Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo, Japan)

昭和 29 年6月札幌に於て動物博覧会開催中マレーニシキヘビ Python reticularis SCHNEIDER が 斃死し,解剖の結果数庫の内部寄生虫特に 11 隻の舌虫が発見され,これらに就ては既に公表したが,同時に外部寄生虫としてダニ1個体を採集した。このダニはるで,検査の結果 Aponomma 属のものであることが判明した。本種は蒸帯地方の爬虫類に特有のもので,爬虫類の鱗片下に潜入して吸血する習性を有する。本種は未だ我国に於て記載された報告を見ない。依てここに本種るの形態を記して参考とし度い。

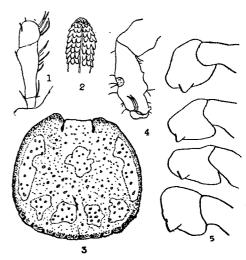
なお宿主錦蛇は斃死の数個月前にマレーから輸入されたもので、本ずニが彼の地に於て既に寄生していたことは当然考えられる。 又今回の発見は る のみであり、半の形態は不明であるから、属名のみに止め、種名の確定は差控え度い。

形 態

体は 2.4×2.6cm で、幅は長さより稍々広く、背甲板は黒褐色を呈し、表面には銀白色の汚点と大小不同の細坎が全面に散在し、眼を欠く。背甲板の銀白色模様は左右略々相称的に肩部から体の後方に伸びた内側に凹部を有するものと、これらの両後端部の中間、背甲板の後縁花彩上部に沿つて存在する4個の略同大の不正形模様と、更に中央より稍々前方に位置する1個の不正形模様とが認められ、何れもそれらの部位に黒褐色の大小の細坎が点在する。

腹面は乳白色を呈し、生殖孔は第2基節の中間、正中線上に横裂して存在し、性構は後方にゆくに従つて拡がり、外方に開く。肛門は第4基節後縁より後方、正中線上にある。気門板はレトルト状を呈し、後方背面に僅かに達し、その表面は黄白色の小粒子を以て埋

まる。気門は気門板の広幅部中央に存在し、隋円形を 呈する。

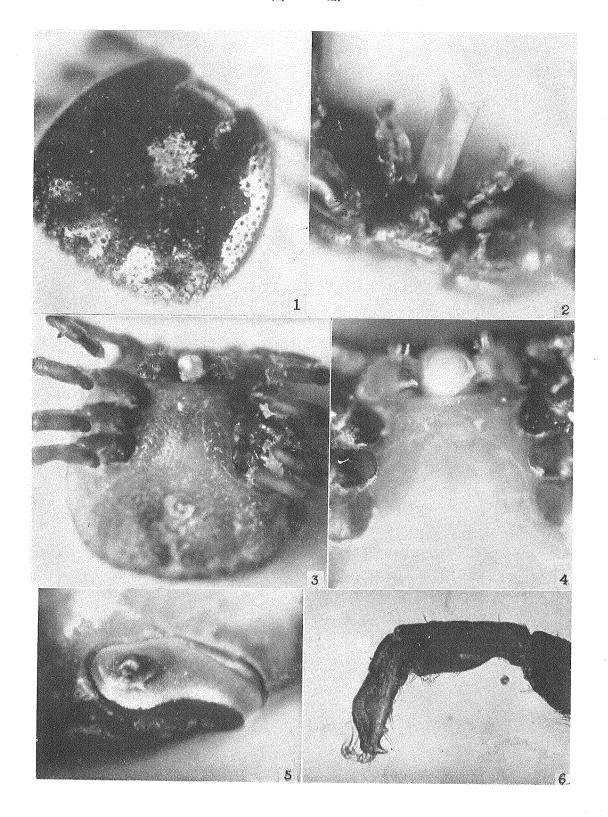


- 1. 触鬚背面 2. 下 顎 3. 背甲板
- 4. 第1 歩脚の跗節 5. 基 節

第1図 Aponomma sp.

吻基は背面亜五角形を呈し、触鬚は長く、恰も Amblyomma 属に近似する。その第2節は第3節より遥かに長く、その長さは幅の約3倍で、前方にゆくに従い幅広く、第3節は先端丸味を有し、長さは略々幅に同じ。第1節及び第4節は短小である。第2節及び第3節は何れも 4~5 本の小刺を有する。下顎は3 | 3 の歯列を有し、1列には各8個の歯を有する。各歩脚の基節は略々同大で、夫々1個の距を有するが、第1基節の後縁は他の基節より狭く、恰も2個の距を有する如く見える。各歩脚の腿節は最も大きく幅の約2倍を有し、転節の長さは幅の約2倍である。跗節

^{*} 北海道大学歷学部動物学教室



の前端上縁は急に傾斜し、先端には樗盤を具え、且つ 2個の長大な鎌状の爪を有する。第1歩脚の付節には ハラー氏器管が明瞭に認められる。本種の体形が極め て扁平なことは宿主の鱗片下潜入に適応したものであ ると云われる。

上記の形態は明かに本種が Aponomma 属のダニであることを示すものであり、弦に著者等はマレーニシキヘビから得たダニを Aponomma sp. と同定した次第である。本種の分類学的位置は次の通りである。

Order Acarina 蟎 目

Family Ixodidae 真蟎科

Subfamily Amblyommatinae 雲母真蟎亜科

(キララマダニ亜科)

Genus Aponomma 大幅真蟎属

文 献

- 1) SCHULZE, P.: Neue und wenig bekannte Arten der Zeckengattungen Amblyomma und Aponomma. Z. f. Parasitenk., 4, 459. (1932).
- Ueber eine Zeckenausbeute von Kleinsäugern aus Java. Ibid., 7, 167. (1934).
- Zur Kenntnis der Zeckengattung Aponomma Neumann. Zool. Anz., 112. (1935).
- Weue und wenig bekannte Amblyommen und Aponommen aus Afrika, Südamerika, Indien, Borneo und Australien

(Ixodidae). Z. Parasitenk., 8, 41. (1936).

 WITTICK, R. J.: On some ticks belonging to the genus Aponomma and Amblyomma. Parasitology, 31, 434. (1939).

図版説明

Aponomma sp.

- 1. 背甲板 (左側模様は光線の関係で不闡明)
- 2. 頸体部
- 3. 全体腹面
- 4. 同上拡大
- 5. 気門盤
- 6. 第二歩脚前体部 (特に射節の形態を示す)

Résumé

A specimen of the tick has been obtained from the reticulated python, *Python reticularis* SCHNEIDER, which has been imported from Malay and kept by a circus for several months.

This specimen is a male, and the body size is 2.4 mm in length and 2.6 mm in breadth. In this paper the morphological character was described, the species being identified as Appnomma sp.

This genus is parasitic under the scales sucking the blood of reptiles in the tropics. Now we are reserved to determine the specific name, for we have no female of this tick. There is no doubt that the snake has been already infected in Malay.